

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和4年度第4回）

開催日 令和4年11月17日（木）  
 場所 百周年中村記念館特別会議室、オンライン  
 出席者 【対面】有松委員、井上委員、梅本委員、高原委員、前田委員、宮武委員、（五十音順）、  
 学長、理事（教育接続・連携P F担当）、理事（研究・社会連携担当）、理事（総務・経営改革担当）、  
 理事（ダイバーシティ&インクルージョン担当）、工学研究院長、情報工学研究院長  
 【オンライン】麻生委員、鵜飼委員、久保田委員、松岡委員、（五十音順）、  
 生命体工学研究科長、教養教育院長  
 列席者 近藤監事、林田監事  
 会議成立 構成員21名のところ、19名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題 1	(審議事項)	人事院勧告に伴う給与改定等について	原案のとおり承認	
議題 2	(報告事項)	国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について		<p>○若手の起用を早めから行った方がよいと考えるため、方針に賛成する。（学外委員）</p> <p>○教職協働を進める上で本部制の導入及び権限の明確化は重要であり、原則2-1-3を「△」にしたことは真摯な姿勢だと感じる。他大学では同程度の内容で「○」になっているところもあるかと思われるが、「○」になっているか否かではなく、どのように取り組んでいるかが重要であるガバナンスコードの意義からすると、本学の公表の仕方は素晴らしい。今後に期待している。（学外委員）</p>
議題 3	(報告事項)	2023年度予算の概算要求について		<p>○半導体中核人材リスクセンターについて、育成された人材が熊本（TSMC）に取られてしまい、北九州市の企業における当該分野の人材確保が困難になることが懸念される。熊本以外の地域における人材の需要も念頭に置き、十分な人材育成に繋げてほしい。（学外委員）                      →そのために高専や工業高校を巻き込み始めた。また、世の中全体の人材を育てるため、リカレント・リスクキングに重きを置いている。（学内委員）</p> <p>○予算要求の書きぶりについて、大学側は、予算をつけるのははもっともだと思わせるような合理的かつ十分な説明をすることについて、更に努力すべきだ。（学外委員）</p> <p>○予算規模は今後大きくなる可能性はあるのか。学生の入学後、成長分野であり社会的ニーズがある半導体関連分野を学びたいとなった場合、専攻を変えることができるなど自由度はあるのか。（学外委員）                      →情勢による部分もあるが、予算規模が大きくなる可能性はある。自由度をどのようにするかは内部で検討中である。また、リカレント・リスクキングがキーワードになってくる。技術の進歩に伴い学び続けることが必要だというのが今の世の中の考え方であり、卒業生の品質保証としてどのように進めていくかを設計している。（学内委員）                      →リスクキングや在学中の専攻の変更など、柔軟性を持つことがこれから重要になってくるとされる。（学外委員）</p> <p>○リカレント・リスクキングについて、教員に対しても視野や経験を広げるため、企業と大学の相互の受入などを行って教員自身の成長も図るとよいのでは。（学外委員）                      →クロスアポイントメントとして企業と大学の両方に在籍する形をとっている例もあり、今後拡大していこうと考えている。クロスアポイントメントで大学に来た企業の方に教員や学生も関わる形で世の中と交わる機会も作り出している。（学内委員）</p>

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題 4	(報告事項)	第 2 回経営協議会以後のトピックスについて		<p>○GYMLABOについて、期待以上の展開をしている。今までにない雰囲気GYMLABOで作られていくのでは。またシェアオフィスに入居の期限はあるか。(学外委員) →シェアオフィスは2年間の契約としており、入居企業は入れ替わっていく予定である。(学内委員)</p> <p>○東京在住者には九州発のニュースは入りにくい、宇宙開発に関する内容はとても良い話題だと感じる。ウガンダやジンバブエなど国際的な広がりができているので、GYMLABOを舞台に宇宙関連のシンポジウムを開催するなど、理工学分野に限らず一般市民も関われるような機会を設けては。(学外委員) →大学としての人工衛星の打ち上げ数は4年連続世界一になっているが、うまく広報できていない。打ち上げは多数行ったので、これからは応用面を展開していくことになる。シンポジウム等の仕掛けは宇宙ラボでもたくさん企画しており、その一環としてGYMLABO開催企画があればよいと思う。宇宙開発に魅せられて本学に入学した学生も増えてきており、受験生に対しては効果が見えてきている。(学内委員)</p> <p>○GYMLABOを訪問し、設計施工に苦勞し、学生も一部工事を担うなどして作り上げたと聞いたので、GYMLABOが生まれ変わったストーリーを仕立てて少なくとも学内で共有しておくといいのでは。 URの賞を学生が受賞した件について、建築業界では学生のアイデアをコンペすることがあるが、アイデアのみで実現の過程に学生が携われないことが多い。コストや技術などを学ぶ機会になるので、継続的に実現の過程や完成して入居者が決まるまで学生が携われるようにしていくといいのでは。(学外委員) →GYMLABOについて、ピアノチームはビデオを作成して既に共有しているが、GYMLABO自体も学生の共感を呼ぶためにうまくストーリーを共有するために仕掛けていきたい。(学内委員)</p>
議題 5	(その他)	ITエンジニアリングスキルアップ講座 (Kyutech Code Lab:KCL) の紹介について		<p>○参加人数はどの程度なのか。(学外委員) →行事によって内容は様々であり、関心があるものに自分から参加する形になっている。1つの講座に10名程度が参加している。(参加学生)</p> <p>○社会人と交流する事でカルチャーショックを受けたことはなかったか。(学外委員) →企業の方に学生時代に業務に関わる内容を学んでいたのか聞いたところ、業務に関しては就職してスキルを身につけたということだったので驚いた。(参加学生) →学生時代に色々な事に触れた方がいいということも教えてもらえて勉強になった。(参加学生)</p> <p>○参加学生は情報工学部の学生の割合が高い。工学部の学生でも将来的にITリテラシーに関わる仕事に就く方は多いと思われるが、負荷が高いためこのようになっているのか。(学外委員) →プログラミングを極めたい、コードを書きたいというような要望を情報工学部の学生から聞くことが多い。工学部では1-2年次に必修で学ぶものの進級に伴いプログラミングやコードを学ぶ機会が少なく、引き続き学びたいということで参加する学生がいる印象。(学内担当職員) →工学部ではプログラミングに触れる機会が少ない。ただ、化学やロボットの分野でも研究にプログラミングを使っていこうという人はいて、学ぶ場を設けてもらえるのはありがたいと感じている。また、現役エンジニアの方と会える機会はないので、自分のペースで活用していきたい。(参加学生)</p> <p>○女子の参加者が少ないのは、大学の比率なのか、KCLでの比率が少ないのか。何か理由があるのか。(学外委員) →学部における女子比率は16%であり、参加者比率はそれよりやや低いくらいかと考えている。(学内委員) →1人女子が入ると友人も参加するという形で少しずつ輪を広げている。SNSを通じてKCLを知る学生もいるので、広報も進めていきたい。(学内担当職員) →自身の参加グループに女子がいるので、女子が少ないという印象は持っていない。(参加学生)</p>